

朝日カルチャー「野外の自然観察」

大興善寺 ～もみじまつり～

2021. 11. 29

今回の目的地は、新型コロナウイルスの影響で、つつじ祭り、もみじ祭りと2回延期になったいわくつきの場所です。3度目の正直でやっと開講することができました。その甲斐あってか、快晴のもと総勢20名の素晴らしい晩秋の紅葉狩りでした。

さて、紅葉狩り目的地の大興善寺は、養老元年（717）、行基が結んだ草庵が始まりと伝える天台宗の古刹です。近年は、推定樹齢約50年のヒラドツツジが境内全域に咲き誇る、「つつじ寺」として有名です。また、全山にイロハモミジなど約500本が植えられており、佐賀県の名木・古木台帳には推定樹齢70年、幹回り0.5mとの記載があります。

集合は大興善寺山門前で、さっそく百数十段の石段上りの試練です。息を切らして山門到着、目の前の鐘楼からの心地よい梵鐘の音が染みわたります。そして、見上げると推定樹齢600年、樹高25m、幹回り5.7m、枝張り30m（佐賀県名木100選記載）のクスノキ。その横には推定樹齢200年、樹高32m、幹回り3m、枝張り25mのイチヨウです。圧倒されます。

拝観料を納めて、いよいよ紅葉狩りとなりました。

日本庭園、弁財天、夕陽ヶ丘広場（昼食）、契山観音（恋人の聖地）、各スポットの展望所等々、四ツ目垣のある整備された急勾配の遊歩道を進んでいくのですが、どの場所からも、葉が黄緑、黄、橙、赤と変化していくイロハモミジのグラデーションは素晴らしく、加えて差し込む陽光のおかげで、参加者の皆さんも晩秋の紅葉を満喫されていたようです。

日本庭園をはじめとして遊歩道散策では、シマカンギク、ツワブキ、サザンカの清楚な花やニシキギ、キミノセンリョウ、マンリョウ、ハクサンボクなどの艶やかな木の実が印象的でした。

途中に、「石の上にも百年の木」の案内板があります。皆さん興味津々。実は大きな転石(?)の上に根づいたコバンモチの木でした。このほかにも、「寝そべる犬」、「森呼吸の道」など天然の地形を利用しているようなネーミングが工夫されています。「もみじ祭り」の最中でしたので、露天の食べ物や猿回しの余興も楽しむことができました。

木守柿と軒下の干し柿、淡桃紫色の皇帝ダリアの花、深紅のウメモドキの実、土塀にからまる朱色のツタなどを楽しみながら帰路につき、遊び心のある楽しい晩秋の散策となりました。

スタッフ 溝口 手寫（記）

